

河北新報

4月20日(土)

河北新報社

仙台市青葉区五橋1-2-28
(郵便番号 980-8660)

「東」は、未来



クロマツの苗を植え替える海岸林再生の会のメンバーら



いつか大きな海岸林に 名取・クロマツ苗床替え

東日本大震災の津波で失われた海岸林の再生に向け、クロマツの苗を広い畑に移植する「床替え」が19日、名取市下増田で行われた。公益財団法人「オイスカ」(東京)が同市で取り組む海岸林再生プロジェクトの一環。地元の被災農家らも作業に当たった。

「名取市海岸林再生の会」の被災農家やオイスカ職員、支援企業のスタッフら計約60人が参加。昨年3月にまいた種から育った苗を、隣地の畑に1平方メートル当たり50本程度に間隔を広げて植え替えた。床

替えによって日光が当たりやすくなり、肥料も行き届くという。

1週間ほどかけて、約9万本を8000平方メートルの畑に移し、3年目の来年は海岸に植える。オイスカは「小まめに手入れをしており、生育は順調」と話している。床替えと並行して、クロマツの種約7万5000粒を新たに畑にまく。

震災で被災した海岸林は約3660畝で、県内では1400畝以上に及ぶ。オイスカは10年間で名取市の海岸林約100畝分に相当する50万本の苗を育てる計画だ。